

人生ハンド仏句

第47号

H. 18. 2. 1
(毎月1日発行)

恩師の死

住職 谷川寛俊

過日、一月二十六日明石市大聖寺前住職猪俣日康先(九十歳)の本葬儀が厳修され私も参列して来ました。

私が身延山の学生時代の恩師であり忘れる事の出来ない先生の一人です。卒業以来すでに三十六、七年お会いする事もなかったのですが、ここ四、五年前よりお手紙やら電話でお話する機会があり、大変懐かしく学生の頃の事が脳裏により返つて参りました。

最近体調が優れないと伺っており、今年上京した折に是非一度お訪ねしたいと思っていた矢先で残念でなり

ません。

十年程前に住職を交替され、東京の武蔵野市に奥様と長女のご家族様と余生を過ごされていたのですが、昨年秋頃より入退院を繰り返されていたようです。お亡くなりになる一、二年程前より「富山の谷川君は元気にしているだろうか」と昔の事を思い出し、私の事ばかり家族の人達に話されていたと聞きし、もう少し早くお元気な頃にお訪ねすれば良かったと今になって後悔しています。

本来ならば東京でお骨にして、後日本葬儀をすれば何かと都合が良かったのでしょうか、どうしても明石市の大聖寺から葬儀を出して欲しいとの本人の希望で、空路御遺体を運ばれたのでした。

そして、私と大阪にいらっしゃる一年先輩の竹内祥起上人の二人に連絡するようにとの遺言だったそうです。

大聖寺は、六百年もの歴史のあるお寺で、しかも京の都に法華を広められ

た日像上人の御開山という名刹なので

す。ところが、終戦のどさくさで五年間無住だった為、檀家の人達が皆よそのお寺へ移っていかれ、わずか三軒だけ残って何とかお寺を守っておられたこの事です。そのお寺に入られて毎日太鼓を打って、世界平和と法華経広宣流布の為、市内を唱題行脚され徐々に檀家も増え現在二百数十軒となり見事に復興されたのでした。十年前に起きた阪神大震災にも、山門が倒壊し本堂にひび割れが入るといふ被害にも遭い、現住職も必死の思いで今日まで頑張つて来られたのでした。

そのように大変ご苦労されたお寺ですから、ご本人は勿論、ご遺族の人達の願いも同じだったのでしよう。

二十五日の通夜に参列する為、お昼過ぎのJRで明石へ向い、一旦ホテルに入りました。ホテルに入るなり携帯電話に「明日の本葬儀に教え子代表で

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集 部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochantk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

弔辞を読んで欲しい。」とのメールが入り、しばらく躊躇(ちゅうちよ)したのですが、これも師に対するご恩返しと思い、お引き受けし、通夜終了後ホテルで午前二時頃まで昔の事を思い出しながら、なんとか弔辞を書き上げ、当日は満堂の中無事弔辞を呈する事が出来、光栄に存じました。後でご遺族の方々より涙して拝聴させていただいた、とおほめの言葉を賜り最後に師に対する御恩返しが出来たかなとチョツと嬉しく思つた次第です。

日蓮聖人のお言葉の中に、人間として生まれて来たからには、四恩に報いなければならぬという教えがあります。

- 一、父母の恩(両親・師匠の恩)
- 二、一切衆生の恩(様々な人達によって生かされている)
- 三、国土の恩(この日本の国)
- 四、三宝の恩(仏・お釈迦様・法)

△法華経△・僧△日蓮聖人△

この四恩をしっかりと認識したいものであります。